

献 辞

同志社大学政策学部長・総合政策科学研究科長 風 間 規 男

新川達郎先生は、本年3月31日をもって70歳の定年を迎え、同志社大学を退職されることとなりました。先生の教育及び研究における多大なる貢献に心から敬意を表し、『同志社政策科学研究』第22巻第1号を「新川達郎教授退職記念号」として呈上します。

新川先生は、中央大学法学部と早稲田大学第一文学部で学ばれたのち、早稲田大学大学院政治学研究科に進学、研究者の道の一步を踏み出されました。以後、1981年に東京市政調査会研究員に就任されたのを皮切りに、東北学院大学法学部助教授、東北大学大学院情報科学研究科助教授を歴任され、1999年から同志社大学に着任されました。

これまで、新川先生は、そのあくなき探究心でテーマと向き合い、幅広い研究分野において優れた業績を残されてきました。先生の研究範囲は、公共政策論・ガバナンス論をベースに、政府論、地方自治論、コミュニティ論、NPO論、官民パートナーシップ論にまでに及んでいます。そのどれもが深い洞察に裏付けされた学術的に価値の高い「作品」であり、後に続く研究者たちの道標となっています。

様々な学会においても、その卓越した運営能力をいかんなく発揮され、日本公共政策学会会長や日本計画行政学会副会長をはじめとして理事などの要職を務められてきました。本学においては、公的ガバナンス論やリスク管理政策をテーマに、人文科学研究所の部門研究プロジェクトを主宰され、全国から研究者を集め、活発な議論を通じて切磋琢磨する「場」を作られました。私も研究会に参加させていただき、知的な刺激をたくさん受けることができ感謝しています。

新川先生は、理論研究と実務・実践を高いレベルで両立させている稀有な研究者です。アカデミックな世界に閉じこもることなく、地域公共人材開発機構、京都地域創造基金の理事長として、市民活動やまちづくりの実践を支えてこられました。博覧強記で、どの政策分野にも深く精通されていて、政府や自治体の数々の審議会・審査会の委員としても活躍されています。

本学総合政策科学研究科では、2003年4月から2009年3月まで研究科長を務められ、研究科の発展に力を尽くされました。本年同じく退職される今里滋先生とともに、ソーシャル・イノベーション・コースを立ち上げ、新しい大学院教育のスタイルを模索しつつ、幅広い年齢層の社会人を研究の道に導いてこられました。にっこりした時に見せる先生の優しさ溢れる表情には誰もが惹きつけられると思いますが、公聴会などでの研究指導になると一変し、学問の道の厳しさを伝えようとする真摯な姿勢が垣間見られました。熱心かつ的確な指導を通じて、数多くの学生を博士学位取得に導き、研究者も育てあげられてきました。この記念号には、新川先生の指導を受けた優秀な研究者たちが論文を寄稿しておられます。

これまでの充実した研究・教育を通じて培われたネットワークを生かして、先生がさらなる高みを目指される姿に思いを馳せながら、私からの献辞とさせていただきます。いつまでも元気で活躍されることを、心よりお祈りしております。